

落葉かき

市街地の車道や歩道の落葉を掻き集める「落葉かき」は、2012年秋に実施した「天理環境フォーラム2012」の開催年から始まり、毎年11月の恒例の行事になった。ただ、2017年以降は毎年11月23日（勤労感謝の日）の開催となった。朝10時から11時30分まで、天理市街地でおこなわれる。集合場所は天理市庁舎の玄関前で、誰でも参加することができる。

天理市街地の並木には、さまざまな樹種の木々が植栽されている（下図）。街路樹の落葉がたくさん落ちる頃になると、市民からの苦情も多くなる傾向にある。そのような状況の中で、市民からの要望に応えた奈良県などの対策の一つが、「強剪定」による枝切りだった。



天理市街地に植栽された街路樹の樹種ごとの分布。NPO 法人環境市民ネットワーク天理の久保田有副理事長（当時）が作図。

そこで、並木の強剪定を少しでも回避してもらえるよう、落葉を地域住民と一緒にになって掻き集める「落葉かき」を始めることにした。そして集められた落葉は焼却せず、田畑や果樹栽培の堆肥として利用できるよう農家さんたちとの協力関係も築いた。たとえば、天理市内のみかん農家（山田農園）さん、布留川上流で有機野菜を栽培する「木の子村」さんなどに堆肥として活用してもらうなどの協力を得て実施している。

なお「落葉かき」は、「天理市環境連絡協議会」が発足した2016年以降は、「協議会」が主催・主管となって実施している。「ネットワーク天理」も、共催団体として継続して実施している（下写真）。



2014年11月30日の「落葉かき」を始める前のようす（左）と、落葉を掻き集める個人参加者（中）。
および2016年11月13日のグループ参加者（右）。